

令和2年度里都まちプロモーションプロジェクト会議 議事概要

日時： 令和3年3月22日（月）13：30～
Zoomによるオンライン会議

【会議次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ 太田座長
- 3 議事
(1) シティプロモーション事業の総括と今後の展開について
- 4 その他
- 5 閉会

【議事概要】

(事務局より、オンライン会議につき議事進行を事務局で進める旨説明)

- 3 議事
(1) シティプロモーション事業の総括と今後の展開について
(事務局担当から、資料1-1～資料2に沿って説明)

事務局 本会議体は平成28年度から開催してきたが、第一次総合戦略が今年度をもって期間終了となることから、今年度が最後の開催となる。

ただ今、シティプロモーション事業の総括と今後の展開について担当より説明させていただいた。多岐に渡る部分もあるが、意見、質問等いかがか。

河井教授から何かご意見等いただけるか。

河井教授 アドバイザーが最初の発言となり恐縮である。いくつかあるが、JOIN 移住・交流&地域おこしフェアで相談に来ていただいた方は、どういったことを魅力とじて来られたのか、または、どういった移住を考えている方が来られたのか、といった部分や、タカラッシュの企画では、どんな方がアクセスして、どういった理由で中井町に来られているのか、ということが分析できると、何となくターゲットが東京都・横浜市・藤沢市の辺りといったことではなく、何を考えている人が中井町に魅力を感じやすいか、ということが分かるような気がする。その辺りはいかがか。

事務局 JOIN 移住・交流&地域おこしフェアについては、4組中3組が東京都在住、残り1組が川崎市在住の方だった。また、その中で3組は子育て世帯で30歳前後、残り1組は40～50歳くらいの方だった。子育て世帯の方たちは、コロナ禍を受け、仕事の仕方がリモートになったということや、もともと田舎暮らしをしたいという意向があったようである。また、都内に勤務しているなど、あまり離

れすぎてしまっても、という面もあり、ちょうどいい距離感で、田舎具合もちょうどいいということで中井町を選んでいただいたと思っている。40～50歳くらいの方については、地方でワーケーションをしたいが、遠くへ離れた場合に、がらっと生活が変わってしまうということを懸念して、神奈川県西部辺りで探しているとのお話があった。このため、ちょうどシティプロモーションのターゲットの方に来ていただけたかと思っている。

河井教授 大事なところは、「ちょうどいい」は人によって全く違うため、なぜその人は中井町をちょうどいい、都会的かつ田舎的な町だと思ったのかである。恐らく聞き取っていると思うので、今後はその辺りを上手に、誰に訴求していくのかということと考えられるとよい。他の自治体の話だが、「何となく事業を行いました」で終わってしまうところもある。中井町の場合は、事業を行うことがそのまま分析につながっていると思うので、どんな人が中井町に魅力を感じやすいのか、ということを探ると今後のメディア戦略にとっても重要になると思うので、引き続き、続けてもらえればよいと感じた。私がいくつか思ったことのひとつは以上である。

事務局 タカラッシュの件も説明させていただく。こちらの方は実際にどんな方が来られたのかという部分は分析できていない。今回掲載された問題は、中井町に関する問題と分かるものではないため、まずは中井町を知っていただくきっかけづくりとしてタカラッシュと組んだところである。実際に町に来ていただき、町に興味を持ってくれた方がどんなところに寄ったのか、どんなところに魅力を感じてもらえたのかは深掘りしていきたい。掲載する問題は毎年更新される予定なので、分析についてもしっかりと進めていきたいと考えている。

事務局 他にあるか。

委員 私は山登りをしているが、新型コロナウイルスが流行してから、低山で人が増えていると感じている。私自身、ちゃんとした活動はできないので、中井町の里山を歩いたりしているが、例えば、曾我との境目の尾根道は比較的ハイカーもよく知っていて、ちょっと行くだけで人とよく会う。土屋の方面も、ある程度知られたハイキングコースがあるようで、人が歩いているのを見かける。中井町の場合は、そういったハイカーの人たちに対しても、知る人ぞ知る、というような場所しかない。私はもっといいところだと思っているのだが、この点に関して、アクションプランでは何かできないのか。

事務局 シティプロモーションのアクションプランというところでは、情報発信がひとつのキーポイントになると考えている。事業の充実といった部分は、総合戦略等が担っていく部分になるかと思うが、今回、総合戦略と一本化を図った総合計画後期基本計画の方でも、「里山をいかした取組数」というものを重点プランのKPIとして設定している。委員からいただいた意見も担当課と共有しながら、どういった情報発信がしていけるか考えさせていただきたい。

委員 ぜひ、新しい考え方でアピールのようなこと、あるいはコースを考えたりとい

ったことに取り組んでみたらどうかと思っているので、よろしく願います。

事務局 他にいかがか。

委員 オンラインによる移住相談についてお伺いしたい。どのくらいの方がオンラインの移住相談を利用されているか。

事務局 日頃のオンライン移住相談としては、今年度は3～4件くらいの相談を受けている。パートナーが中井町出身でこちらに来ようしている方であるとか、親友に紹介されてどんな町か聞くために相談にきた方などがいる。それ以外に、電話で相談を受けることもある。

委員 二宮町では第三土曜日にオンラインで申込制の移住相談を実施しているが、中井町では、子育て世代などの働いている方が相談しやすい土曜日や日曜日に相談を受ける考えはあるか。

事務局 現時点では、中井町に興味を持っていただいた方で、土日に相談したいという方については、JOIN 移住・交流&地域おこしフェアなどのイベントに来ていただくような形になる。

事務局 今回、ご意見をいただいたので、勉強させていただいて、取り組むべきものは検討していきたいと思う。

事務局 先程、手を上げられていたが、太田座長から何かあるか。

座長 2週間ほど前に陸前高田市に伺った。あの街では、震災後に、現在はNPO法人になっている「SET」という若者の団体が設立されている。田舎暮らしの体験をしてもらう事業や大学生などを対象とした4か月間の国内留学の事業などを通じて、地域の方との関わりを持たせ、地域の良さをわかってもらったり、社会に出て少し疲れてしまったという方が田舎暮らしを体験することで自分らしく生きることの再発見をしたり、といった成果が出ていた。また、1年間に40人程度移住されているとのことで、こうしたNPO法人などが間に入ると取組として有効なのかなと感じたが、そういったことは検討されているか。

事務局 移住に関して取組を進めている団体というものは、少なくとも町では把握できていない。ただ、担当としては、資料2で説明した「町の魅力を語り合い活動を共有する場」に移住を検討している方が参加するというのも面白いのではないかと考えている。行政職員が話をするだけでは、町の魅力が伝わりきらない部分もあると思うので、こうした町民の方と触れ合う場所があると、移住を検討される方にとっても、中井町にとっても、町内外とのつながりが生まれるのでよいのではないかと思う。ただ、この場づくりについては、シティプロモーターと一緒に進めていく内容だと考えているので、あくまで担当としての考えという点をご了承いただきたい。

座長 もう一点何うが、陸前高田市はもともと味噌などの発酵関連の事業者が多くいた街で、そこに目をつけた方たちが発酵の事業で街を元気にしようと、ログハウス調の店舗にいくつかの若い事業者を入れて、観光も含めた取組をする場所づくりを行っていた。中井町では、中井中央公園になかい里都まち CAFE を整

備したかと思うが、主要道路沿いに施設を整備しようとする、規制などにより店舗等が建てられないといった条件があるのか。

事務局 規制があつて整備できないというよりは、第六次総合計画の前期基本計画の期間中に交流拠点である なかい里都まち CAFE を整備したことから、当面は、こちらを活用して発展させていくという考えであり、新たに、ということは現状では考えていない。

委員 店舗の絡みになるが、現在、規制があつて一番もったいないと考えているのは、グリーンテクなかいである。グリーンテクなかいには、昼間、外から色んな方が入ってくるが、あの場所には何にもない。それぞれの建物の中で完結してしまい、人が外を歩くということもない。あの場所に何か店舗ができないか、ということはずっと思っている。規制というのはどうにもならないのか。

事務局 規制というところで、当該工業団地の中は、都市計画上で工業的な地域に位置づけられており、店舗等が立地できない。それをすぐに変えていくというのも難しく、中々、課題が解決できない状況である。

委員 この件は、残念に感じている。私が勤める会社もあの中にあるが、会社の中では、中井町が二宮町の一部だと思っている人がいないこともない。その程度の認識をされてしまっており、いつも寂しいと感じているので、よろしくお願ひしたい。

河井教授 改めてアドバイザーとしての意見を申し上げておく。NPS をとられて施工の前後や公園づくりの前後で上がっていることは大変望ましいと思う。ただ、その意欲を具体的な行動にどうやって結び付けていくのか、ということを確認しないと、上がってもだんだん下がってしまうので、推奨意欲があがったのであれば、その人たちが推奨するための方法を用意されるとよいと思った。

また、SNS やホームページを積極的に使っているのはよいことだと思うので、そこからさらにシティプロモーションのページ等に誘導すると、誘導された人がどのような人なのかという点で評価や分析も可能となる。

3点目として、シティプロモーターの話はこれからなのかもしれないが、事務局が説明したように、単独の個人としてのシティプロモーターだけに留まらず、シティプロモーターを個人で考えているのであれば、恐らく、それを地域の中で支える仕組みが必要である。具体的には、奈良県生駒市の「いこまち宣伝部」や大阪府豊能町の「とよのわたし研究室」、あるいは、茨城県小美玉市では「みの〜れ」という施設を活用することによる地域の支援のようなものがあるので、こうした事例を研究すると、危惧されていたシティプロモーターが孤立してしまうであるとか、シティプロモーターがやりたいことと町が期待すること、あるいは住民が期待することとの齟齬、といったことがなくなると思う。

事務局 他はいかがか。

委員 横断幕がだいぶ目立っていてよいと思う。今の SNS 等から誘導するという話と近いと思うが、あの横断幕を見た先に、中井町はここに行ったらいいよという

話につながるともっとよいと思う。グリーンテック内の看板がすごくいい看板に代わり、3次元のバーコードをつけて場所を分かるようにしていたりと、ああいったものはすごくいいアイデアだと思うので、そうした観点でよろしくお願ひしたい。

事務局 他にないか。

他に意見なければ、河井教授からも総括するようなご意見をいただいたので、本日の議題はすべて終了とさせていただきます。

4 その他

鶴井課長 本日の議題以外に委員から何かあるか。

(意見なし)

鶴井課長 特段ないようなので、本日の議事を全て終了する。

○出席委員：

(株)タウンニュース湘南支社 大磯・二宮・中井編集室 豊田 博美

湘南ケーブルネットワーク(株) 専務取締役営業本部長 太田 努

神奈川県県西地域県政総合センター企画調整課主事 青木 聡志

町民代表 小宮 邦俊

町民代表 小林 浩

○アドバイザー：

東海大学広報メディア学科教授 河井 孝仁

○事務局：

中井町 4名(鶴井、重田、黒田、佐藤)